

山野則子構成員提出資料

大阪府子どもの生活に関する実態調査(2017) 集計・分析について

1. 等価可処分所得により困窮の程度を分類

世帯の可処分所得(収入から税金や社会保険料を引いた実質手取り分の収入)を世帯人数の平方根で割った額

等価可処分所得
(最大値)

中央値
(端から数えて真ん中に位置する値)

中央値の60% のライン

中央値の50% のライン

等価可処分所得
(最小値)

～回答者の合計 99,809人(62.3%)～
小5・中2の子ども 50,106人(62.5%)
小5と中2の保護者 49,703人(62.0%)

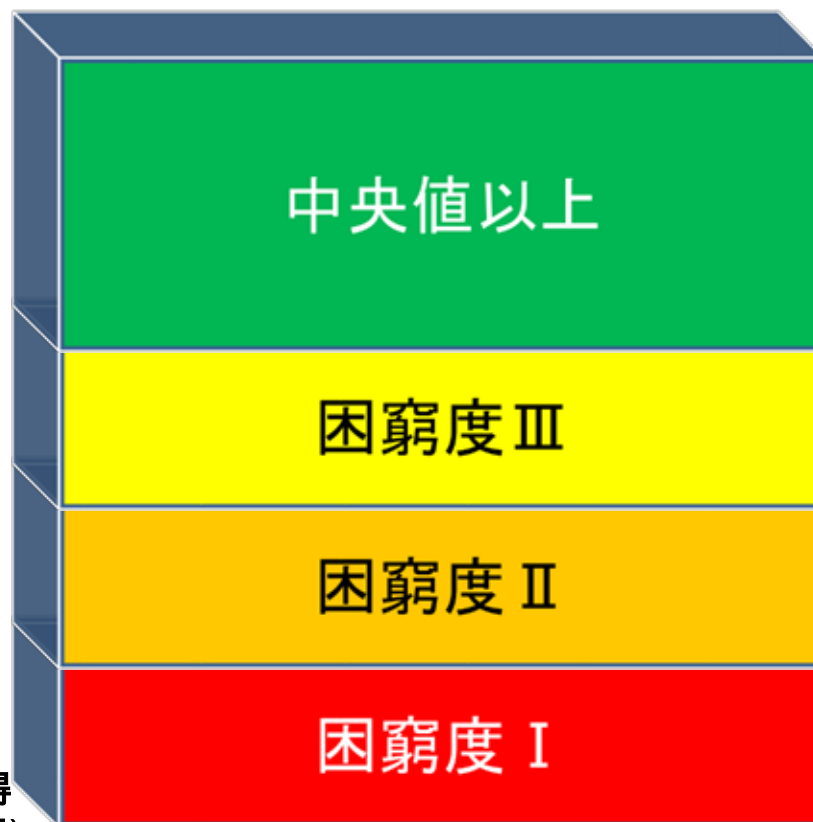
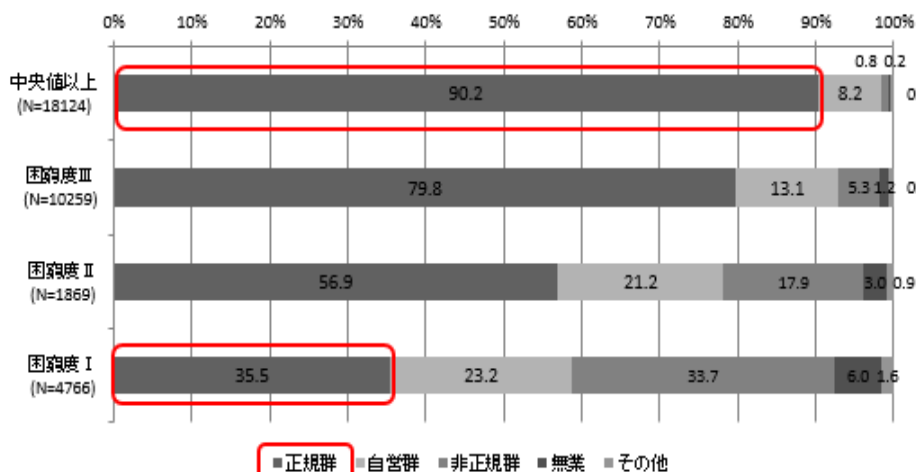


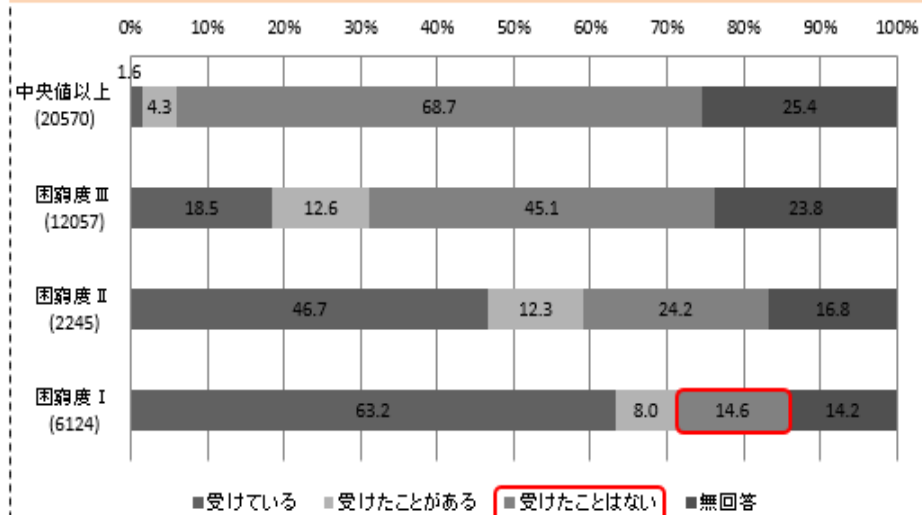
表1. 世帯別労働状態と制度利用

出所: 大阪府子どもの生活実態調査「調査報告書を踏まえた課題と対応の方向性の整理について」より抜粋

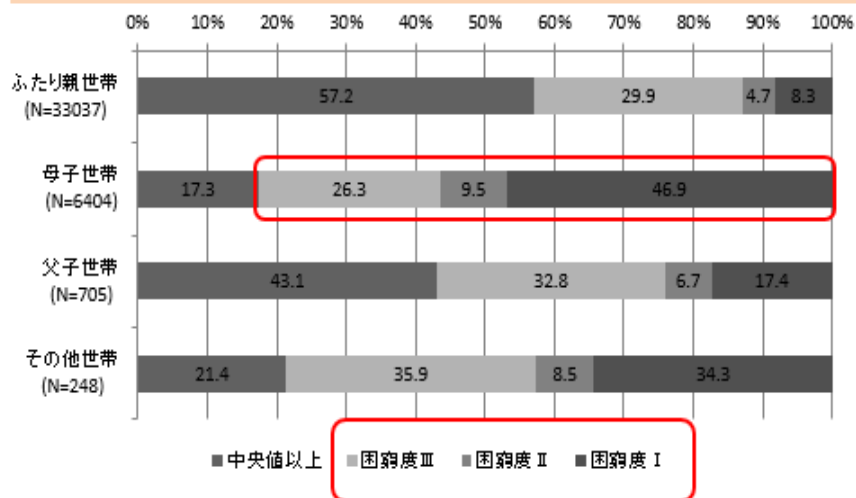
◇困窮度Ⅰの世帯における正規雇用の割合は約4割である。



◇困窮度Ⅰの世帯で就学援助を受けたことがない世帯がある。



◇母子世帯の約8割が等価可処分所得の中央値に満たない。



◇困窮度Ⅰのひとり親世帯で児童扶養手当を受けたことがない世帯がある。

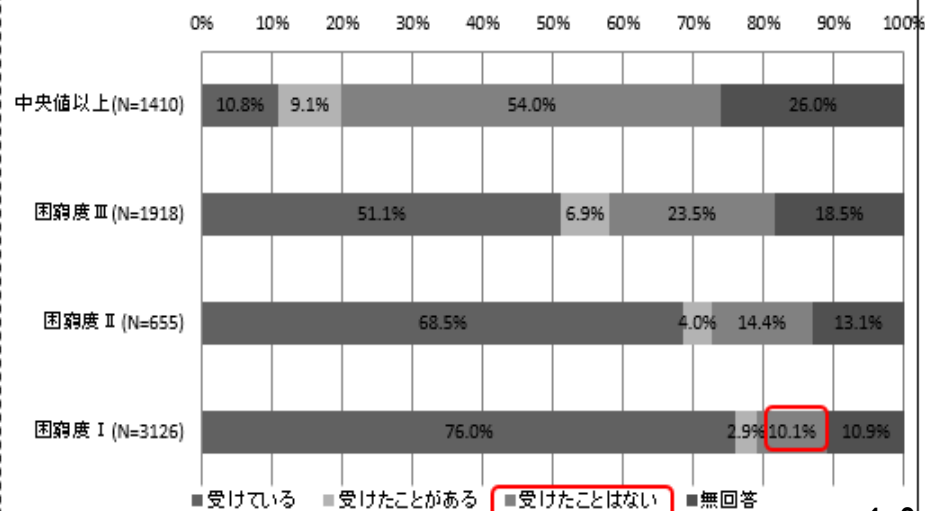


表2. 子どもの生活: 食事と遅刻

おうちの大人と一緒に・・・

朝食をほとんど毎日食べると回答した割合が中央値以上、困窮度 で約5割、困窮度 及び困窮度 で約4割
 夕食をほとんど毎日食べると回答した割合は約8割

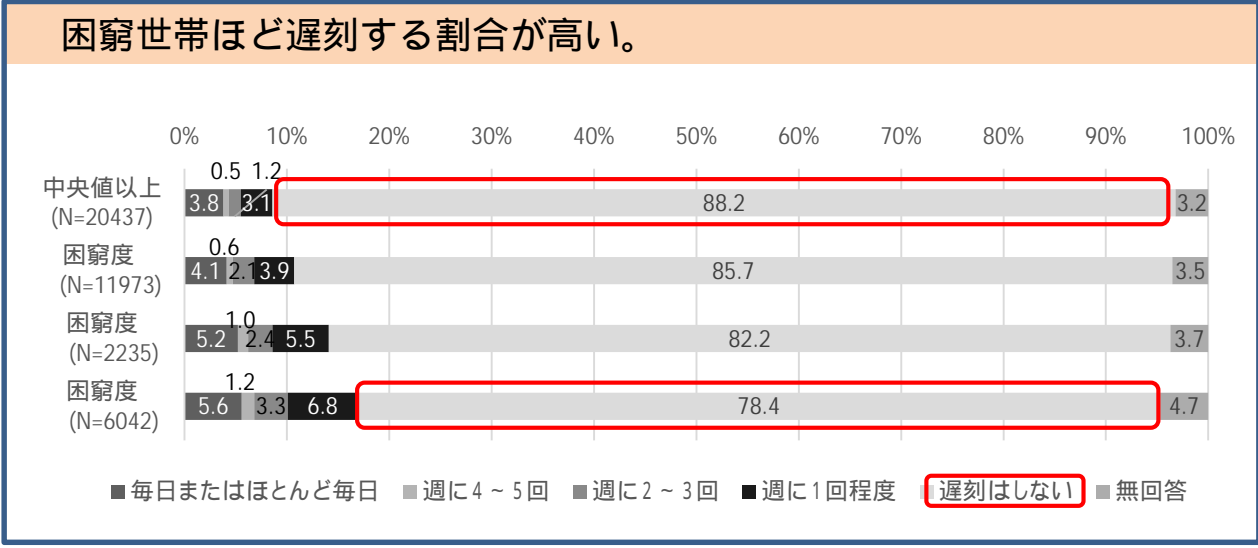
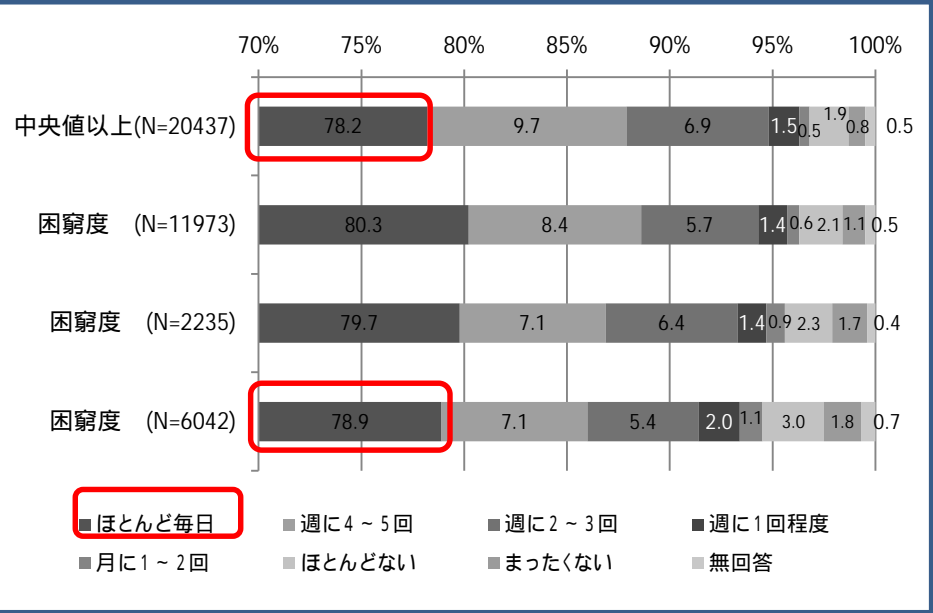
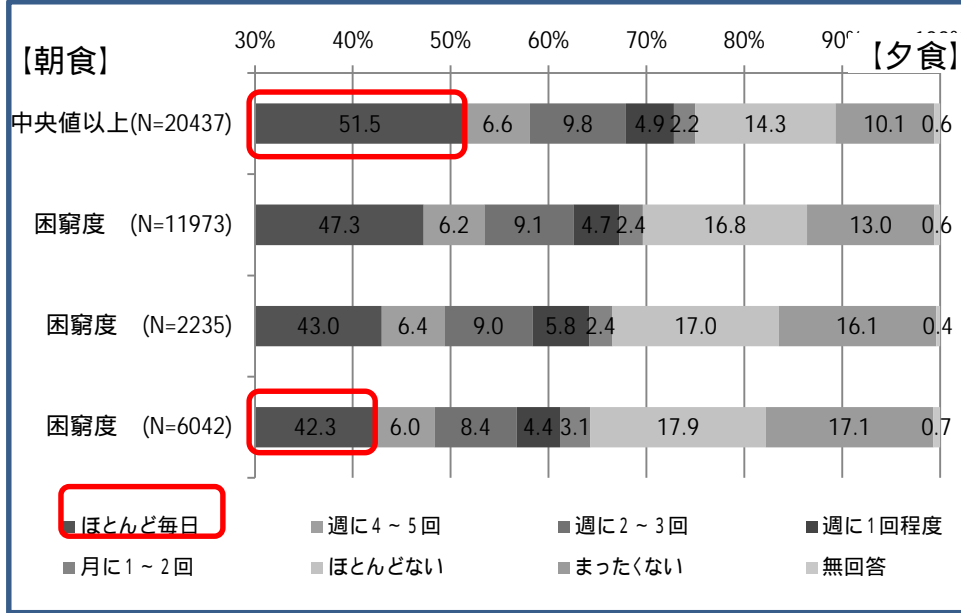
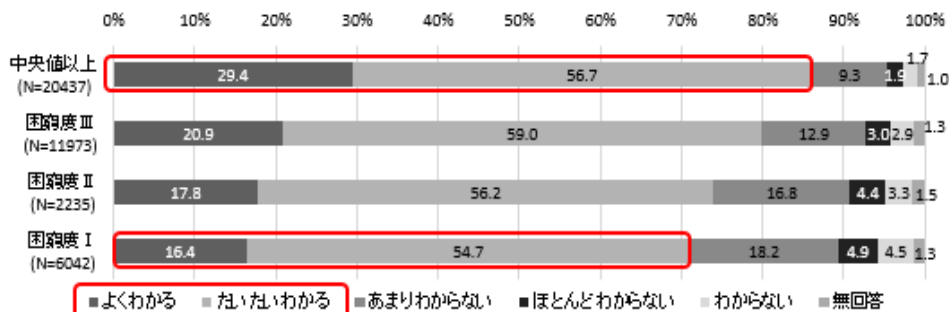


表3. 子どもの教育に関すること

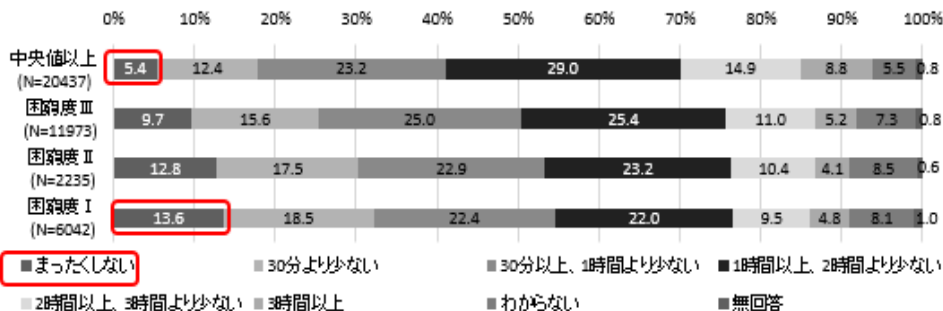
43市町村

表4. 子どものつながりに関すること

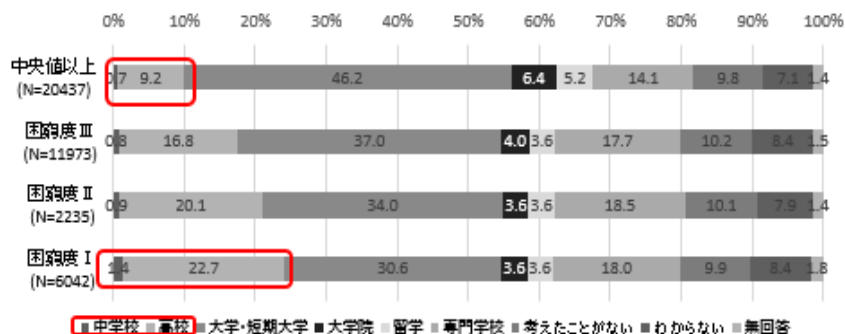
◇困窮世帯ほど学習理解度について「よくわかる」「だいたいわかる」の割合が低い。



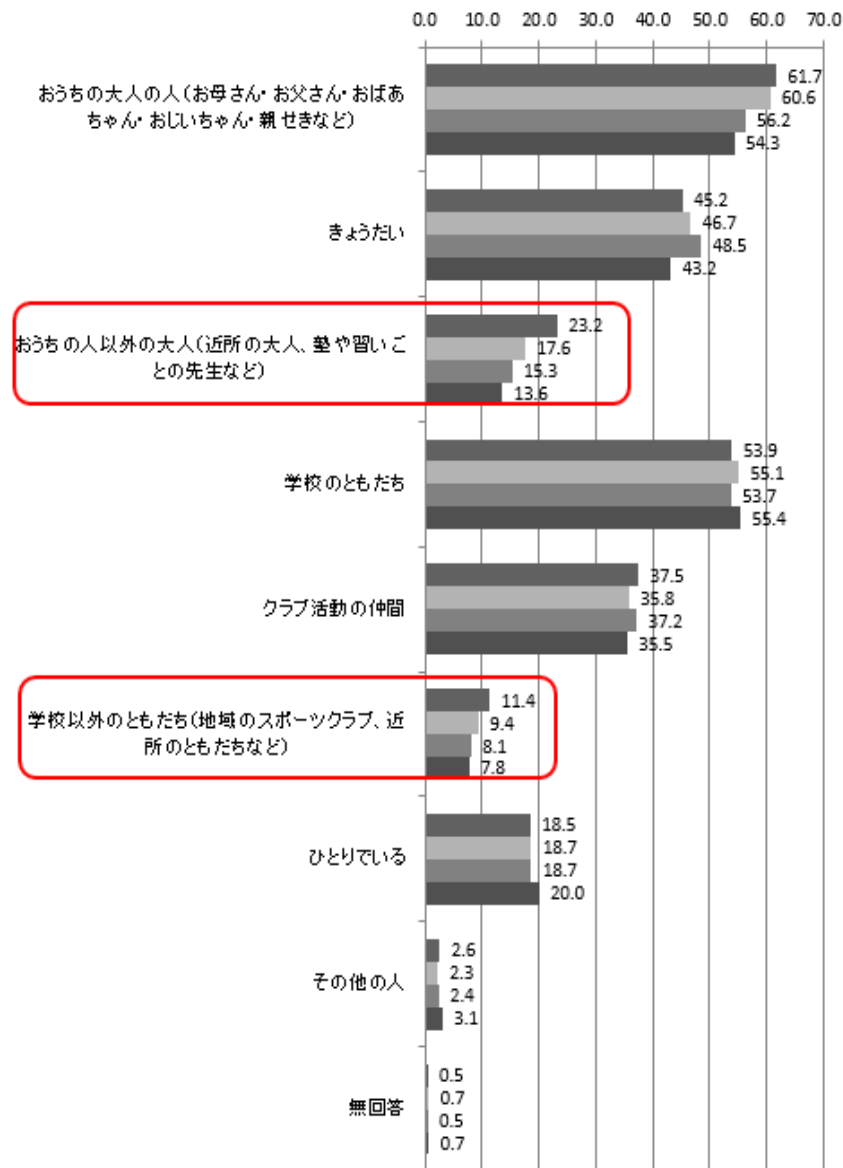
◇困窮世帯ほど授業時間以外の勉強時間について「まったくしない」の割合が高い。



◇子ども自身の進学希望について、困窮世帯ほど「中学・高校」の割合が高い。



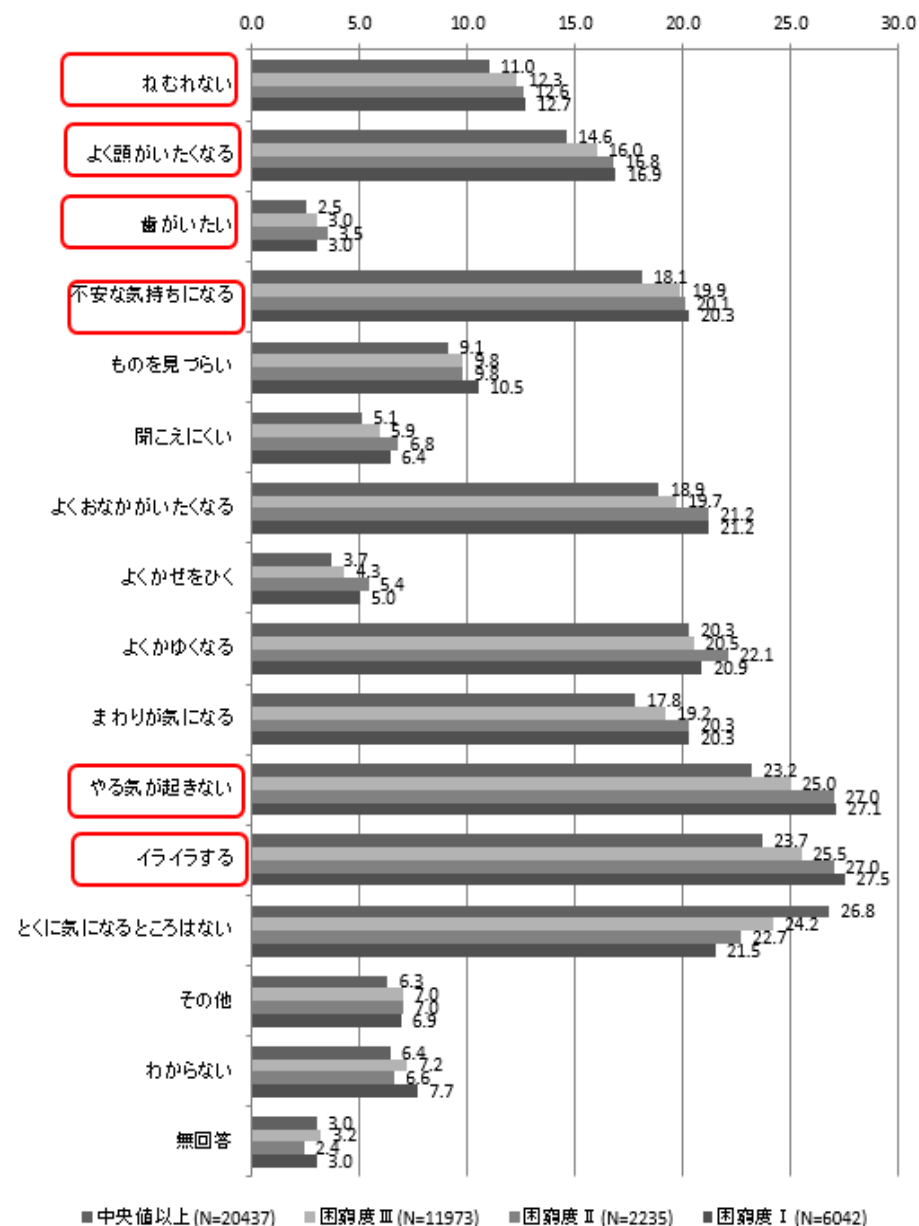
◇放課後ひとりである子どもについては、困窮度に関わらず約2割。困窮度が高いほど、おうち以外の大人や学校以外の友だちと過ごす割合は低い。



■ 中央値以上 (N=20437) ■ 困窮度Ⅲ (N=11973) ■ 困窮度Ⅱ (N=2235) ■ 困窮度Ⅰ (N=6042)

表5. 健康に関すること

◇子どもの心身で気になることについては、困窮世帯ほど割合が高い傾向にある。



◇保護者の心身で気になることについては、困窮世帯ほど割合が全体的に高い。

